

# 商圈調査に見る 千葉県の商圈の変化

## 前回調査との比較

「千葉県消費者購買動向調査」(以下、商圈調査)は、千葉県の消費者の購買動向を調査し、主にどの市町村で買い物をしているかを明らかにする調査である。買い物客を吸引する力(吸引力)が強い市町村を、その吸引力の強い順に「商業中心都市」「準商業中心都市」「単独商圈都市」の3つに分類し、そのうち「商業中心都市」「準商業中心都市」が買い物客を吸引する市町村の範囲を「商圈」という。

2012(平成24)年度商圈調査(12年7月調査実施)において、千葉県

内で商業中心都市となったのは千葉市・成田市・船橋市・館山市・茂原市の5市、準商業中心都市となったのは旭市・柏市・市原市・八千代市・印西市・銚子市・東金市・木更津市の8市であった。

前回調査(06年10月調査実施)と比較すると、新たに船橋市・館山市が準商業中心都市から商業中心都市となった。船橋市ではイオンモール船橋(12年4月)が、館山市ではイオンタウン館山(07年5月)が開業したことが商圈の拡大に影響した可能性がある。

また、旭市と柏市は、商業中心都市から準商業中心都市となった。旭市では、隣接する銚子市にイオン

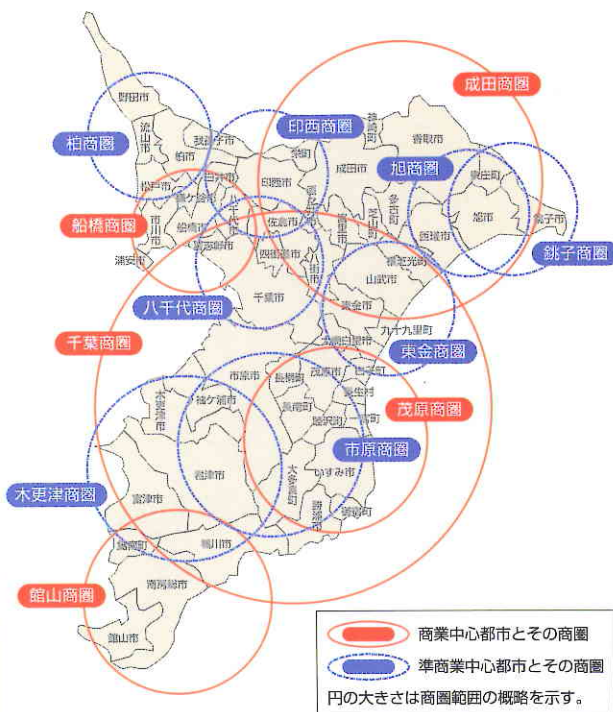
モール銚子(10年3月)が開業したことで、銚子市からの吸引力が弱まり、商圈が縮小した。一方、柏市では、柏市および柏商圏内の流山市や野田市の人口増加に伴い、吸引人口(商圏内で吸引している買い物客の人数)は増加した。東日本大震災後に人口の増加率が伸び悩んだものの、最近では回復が見られ、今

後も吸引人口の伸びが期待される。しかし、柏商圏に含まれていた印西市でのBIGHOPガーデンモール(07年9月)やイオンモール千葉ニュータウン店(07年11月)の開業等により、今回調査では印西市が柏商圏から外れたため、商圈の範囲は狭まった。

## 増加傾向にある大型店舗

このように、商圈の形成や変化には、大型小売店が大きく影響していると考えられる。千葉県では、大型小売店の出店数が増加傾向にあり、売場面積が1,000㎡以上の小売店舗数は、06年10月の932店から12年7月には1,038店となっている。今回の商圈調査には含まれていない酒々井プレミアム・アウトレット(13年4月に開業)や、12月に開業予定のイオンモール幕張新都心(仮)などの出店により、大きく商圈が変わる可能性がある。また、近隣都県の商環境や、首都圏中央連絡自動車道・北千葉道路などの交通アクセスの整備も、商圈の形成に大きな影響を与える。他にも、ハード面の変化に加え、近年の巨大ショッピングモールは、買い物機能に加え、家族や友人と1日過ごせるようなレジャー・エンターテインメント機能も果たしており、それを求める消費者を遠方から吸引している。今後も、千葉県の大規模出店や交通網、消費者心理などのさまざまな変化とともに起きる、商圈の変化に注目していきたい。

図 商圈の範囲



五木田広輝  
(株)ちばぎん総合研究所  
受託調査部研究員

